



東京の会通信

No.321

2025年7月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

全国のボランティアが名古屋に集結 ～協働の重要性を再認識しました～

5月24日(土)、名古屋市立大学医学部桜山キャンパスにおいて、全国骨髄バンク推進連絡協議会主催による「2025 全国骨髄バンクボランティアの集いin名古屋」が開催されました。全国から骨髄バンクのボランティアが集結し、東京の会からも5名が参加しました。

第1部の式典では、全国協議会渋谷会長代行による主催者挨拶に続き、厚生労働省、愛知県、名古屋市、日本赤十字社からの来賓挨拶がありました。日本骨髄バンクは欠席でした。挨拶の後には、感謝状贈呈と「白血病と言われたら」第7版発行の発表が行われました。

第2部では、「患者・患児を取り巻く環境の把握と今後のボランティア活動における協働」をテーマとして、愛知県および名古屋市の骨髄バンク推進担当者による取り組み報告、患児とその兄弟・家族の居場所づくりに取り組んでいる「愛知こどもホスピスプロジェクト」、闘病中の患者の治療と社会生活の両立を支援する「仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジ」の2団体から活動報告がありました。

その後、今回の集いの主管団体である「あいち骨髄バンクを支援する会」の水谷さんが司会進行を担当し、行政と2団体の代表者が参加してパネルディスカッションが行われました。私たち骨髄バンクのボランティア団体として、行政や他団体との協働が重要であることに改めて気づかされ、今後の活動の参考になりました。

第3部は、骨髄移植をテーマにした社会貢献ミュージカル「明日への扉」の公演を20年以上にわたって続けている、「滋慶学園名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校」の皆さんが登場し、ミュージカルの一部を披露しました。学生さんたちの熱気あふれる歌と踊りに会場は大いに盛り上がりしました。また、あいち

の会の水谷さんの司会で学生さんたちがミュージカルや骨髄バンクへの思いを語りました。



集いの終了後は、名古屋名物の手羽先が有名な居酒屋で懇親会が行われ、全国のボランティアが旧交を温めたり、新たな出会いを楽しんだりしながら、大いに食べて飲んで今後の活動への活力を養いました。

当日参加した安藤博文さんと笠原誠さんから、集いの感想を寄せていただきましたので掲載します。

移植体験者の仲間へ再会

今年の集いは、名古屋市立大学医学部桜山キャンパスの病棟・中央診療棟3階ホールにて開催されました。とてもキレイなホールでした。

来賓の方々からの温かい祝辞。「白血病と言われたら」第7版の完成発表。各団体の活動紹介。「あいち骨髄バンクを支援する会」が企画し、とてもチカラの入った集まりでした。

最後に名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校の学生たちが、「明日への扉 Hospital Of Miracle」のステージの一部を披露しました。「人の優しさと命の大切さ」を感じ、とても感動しました。

懇親会は「世界の山ちゃん金山南店」で、集いに出席された皆さんが集まりました。前回東京で開催された「全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京新宿」のとき、壇上に上がった10人の移植体験者の中の数人も参加されました。

皆さん骨髄バンクのボランティア活動をされています。



す。移植体験者なので皆さんのお話しがためになりました。現在のカラダの様子などを情報交換し「来年も元気で会いましょう」を約束して解散しました。私にとってとても有意義な時間でした。(安藤博文)

圧巻だったミュージカル

圧巻だったのは、滋慶学園グループ「名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校」の学生さんたちが演じる骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「Hospital Of Miracle」でした。

彼らは、最初は骨髄バンクの事など知らない方が殆どだったにも関わらず、事前に熱心に稽古に励み、最高のパフォーマンスを見せようと努力して、見事にやり遂げた清々しい表情をしていました。

大切なのは、知らない事・分からない事でも、何とか理解して自分のものにして、それを観客に伝えるという事です。

なにものにも恐れず、怖いもの知らずの彼らは、正しく時代を駆け抜け、この令和の世に爪跡を残しました。

今後、長い人生においては、骨髄バンクの事は身近に感じる事は無いかも知れませんが、何かの機会に思い出して頂ければ幸いです。

そして、彼らがダンサーやパフォーマーやミュージシャンやアクターとして人生を突っ走って行く時に、骨髄移植推進キャンペーンのミュージカルを演じたという事を誇りに持って、邁進して行って欲しいです。(笠原誠)

全国協議会総会・情報交換会

ボランティアの集いの翌日5月24日(日)に、名古屋市の「愛知医療センター名古屋第一病院内ケ島講堂」において、「全国骨髄バンク推進連絡協議会2025年度通常総会」が開催され、東京の会を代表して二見が出席しました。

総会では2024年度事業報告、2024年度決算報告・事業・会計監査報告、2025年度事業計画(案)、2025年度予算(案)など、すべての議案が可決されました。

総会後は情報交換会が行われ、各地団体からの活動報告に続いて、初めての試みとして、参加者がグループに分かれて、ドナー登録推進や活動の継続における課題などをテーマに、課題の洗い出しと解決策のとりまとめを行い、最後に成果発表を行いました。

ドナー登録会一つをとっても進め方などが地域ごとに異なる一方で、共通する課題もあることがわかり、有意義な討議となりました。(二見茂男)

ドナー登録推進活動報告

東京の会のドナー登録推進活動は、継続実施している有楽町献血ルームの活動に加えて、東京の会会員で財団地区普及広報委員の園山千夏さんの尽力により、大田区内の献血会場において並行登録会が行われるようになりました。その他の献血会場や、スノーバンク・防災フェアなどのイベントにおいても説明員が活動しています。また、日本骨髄バンクからの要請を受けて都内大学における献血並行登録会にも説明員を派遣しています。

今回は、6月8日(日)に有楽町献血ルームで行われたドナー登録会について、中根悠貴さんから報告していただきます。

6月8日、有楽町献血ルームで登録会を行いました。当日のドナー登録は13名、内訳は20代5名、30代4名、40代2名、50代2名でした。

献血ルームでの活動では、次のような流れでご案内をしています。まず、総合受付を終えた方に「本日、骨髄バンクについて簡単にご説明していますが、ご興味はありませんか?」と、一人一人にお声がけをしています。そのうえで、献血前の待ち時間を使って、5分ほどのご説明を行うという流れです。

最初の声かけの場面では「もう登録していますよ」と答えてくださる方が、非常に多くいらっしゃいます。こうした反応に出会うたび、活動の輪が広がっているんだなと嬉しく感じるとともに、積み重ねることの大切さを感じます。

とはいえ、現実には「骨髄」という言葉に対して、ちょっと構えてしまう方や、「興味がありません」と

はっきり言う方も、まだまだたくさんいます。もちろん、ドナー登録はご本人のご意思がすべてで、無理にお勧めするものではありません。しかし、少しお話を聞いていただくだけで、不安や誤解が小さくなることも多いため、せっかくのその機会が持てずに終わってしまうと、やはり残念に感じます。

また、説明をご希望くださっても、予約時間の都合でお話ができなかったり、献血後に説明を希望されても対応できなかったりすることもあり、そういった点も含めて「もったいないな」と思うことがあります。

これから、少しでも多くの方に話せるよう最初のお声がけの仕方も工夫していきたいと思います。「聞いてみようかな」と思っただけのような、あたたかく、やさしい言葉選びを心がけようと思っているところです。(中根悠貴)

2025キャンサーフォーラムで交流座談会やります！

8月3日(日)「就労について考えよう」をテーマに東京の会が交流座談会を主催

ジャパンキャンサーフォーラムは、がん患者さんやご家族・一般市民のための日本最大級のがんフォーラムです。今年も8月2日(土)・3日(日)の2日間、国立がん研究センター築地キャンパス研究棟で開催されます。毎年参加している神奈川の会からの紹介で、今年は東京の会もブースを出展します。骨髄・さい帯血移植や骨髄バンクを広く理解してもらうため、骨髄ドナー登録のお願いやボランティア活動への参加を呼び掛けます。活動資金調達のためにグッズの販売もおこないます。

さらに3日12時から、第3会場で交流座談会「就労について考えよう」を主催します。一般の入場者から参加者を募り、闘病のつらさと就労の難しさについて体験談を語り合いながら、ボランティア団体として患者さんにどんなバックアップができるかを、みんなで

考えていきたいと思います。ぜひご参加ください。以下は交流会の告知文です。

【病気と向き合いながら働くこと、仕事に復帰すること、これからのキャリアをどう考えるか～がんの種類や治療の状況によって悩みや想いはさまざまです。「骨髄バンクを支援する東京の会」では、血液疾患に限らず、治療をしながら働く患者さんの就労をテーマに交流会を開催いたします。キャリアコンサルタントの資格を持つボランティアが進行役を務め、安心して語り合える時間を提供します。働くことに関する不安や希望を共有し、新たなヒントを見つけるきっかけになれば幸いです。】

※キャンサーフォーラムへの参加は、下記URLから事前登録が必要です。

<https://www.japancancerforum.jp/>

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2025.4.16～6.15)

小松崎辰哉さん 12,000円／若林秀子さん 10,000円／ヴァンティアン美容室(高橋友三郎様) 7,079円
松崎内科クリニック(松崎道男様) 17,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

新宿の会議室、長年ありがとうございました！

こくみん共済coop東京会館会議室、利用を終了します！今まで感謝です！

骨髄バンクを支援する東京の会では、毎月開催の定例会と1年に1度の総会の会場として、この間、長年にわたって、こくみん共済coop東京会館会議室を利用させていただいていました。

さかのぼること30年以上前、1992年に財団がドナー登録を開始し、東京の会も名称を「公的骨髄バンクを望む東京の会」から「支援する東京の会」に改称した頃は、事務所を転々とする流浪の民でした。新宿荒木町から白金台、鮫洲、また新宿と転々とする間、定例会の会場も、渋谷勤労福祉会館など公共の会議室を毎回借りて開催していました。

そこで私の職場、全労済東京都本部の会議室を使用できないかと労働組合に相談しました。当時職場の後輩が白血病で骨髄移植ができずに26歳の若さで亡くなりました。労働組合は彼の入院生活を支援し、亡くなった後も、骨髄バンクのチラシ撒きなど普及活動に参加していたので快く協力してくれ、東京都本部側への要請で会議室が使用可能となりました。それ以来30年、東京の会では会議室を無償で利用できていました。

この度、東京都本部の移転が決まり、残念ながら同時に会議室の使用もできなくなりました。7月以降は、東京の会も同居している、全国協議会事務所で定例会を開催します。

長年にわたり無償提供してくれた、こくみん共済coop東京(旧全労済東京都本部)と労働組合の皆さんに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。(若木 換)

東京の会 「7月、8月定例会」 のお知らせ

7月19日(土)、8月16日(土) 17時30分より

定例会は、現地会議室集合以外に、オンライン(Zoom)での参加も可能です。

※今回より会場が変更になります！※

会場：全国協議会事務所(千代田区東神田1-3-4 KTビル3階)

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

編集者 雑記



▼2025年5月22日に、骨髄バンクの累計ドナー登録者が100万人に到達しました。また、5月末時点での非血縁者間骨髄移植（末梢血幹細胞移植を含む）の累計数は29,663例となっており、今年度中には3万例に到達する見込みです。

▼日本初の骨髄バンクは1989年10月に発足した民間の「東海骨髄バンク」でした。その後1991年に「九州骨髄バンク」「北海道骨髄バンク」が生まれ、その年の12月、公的骨髄バンクとして骨髄移植推進財団（現日本骨髄バンク）が発足し、翌1992年1月からドナー登録を開始しました。

▼日本における骨髄バンクの歴史は、そのままボランティア団体の歴史でもあります。東京の会をはじめとするボランティア団体は、骨髄バンクの設立運動からスタートし、公的骨髄バンク発足後は長年にわたり普及啓発とドナー登録推進に取り組んできました。

▼累計ドナー登録者数100万人、非血縁者間骨髄移植3万例という実績は、私たちボランティア団体にとっても大きな意義があると思います。草創期から活動された諸先輩の皆さん、そして日々活動を続けている現役のボランティアの皆さんに、心より敬意を表します。

▼しかしながら、現実には厳しさを増しています。2025

年5月末現在のドナー登録者数は、563,885人ですが、1月から3月まで連続して登録抹消者数が新規登録者数を上回り、ドナー登録者数がマイナスとなりました。4月・5月は増加に転じましたが、このペースでは年間の増加数は数千人程度にとどまる見込みです。

▼ドナー登録抹消数の大半は55歳の提供年齢超過です。登録者数の4分の1を46歳～50歳が占めているため、今後10年間で12万人を超えるドナーが登録抹消になります。一方で30代は約25%、20代と10代が約17%で全登録者の半分以上です。若年層のドナー登録を大幅に増やさないと、いずれドナープールが維持できなくなるのは自明です。

▼東京の会では、骨髄バンクからの要請で、昨年都内の大学における献血並行ドナー登録会に説明員を派遣しています。東京の会の活動においても、若年層に対する普及啓発やドナー登録推進にさらに力を入れていく必要があります。また、若年層のドナーが提供しやすい環境を作るためには、企業等におけるドナー休暇制度や、大学等におけるドナー公欠制度の導入も重要な課題です。

▼2026年度から、スワプによる口腔内粘膜からの検体採取とオンラインドナー登録が本格導入される予定であり、若年層の登録推進に効果を発揮することが期待できます。一方でスワプ方式の普及啓発や、相対のドナー登録会との連携など新たな課題も想定されます。累計登録者100万人を達成しても、私たちボランティアに休んでいる暇はなさそうです。(S)

7月会報発送 「おりおり」のお知らせ

日時：7月6日（日）14時より

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※9月「おりおり」予定 9月7日（日）14時より

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー （令和7年5月末日現在）

	ドナー（全国）	ドナー（東京）	患者（全国）
登録者累計	563,885	71,947	71,357
4-5月登録分	6,156	911	408
4-5月抹消数	4,724	621	—
実質登録増	1,432	290	—

患者とドナー登録・適合状況（5月末日現在）

ドナー登録受付者数（累計）1,001,074人

ドナー登録抹消者数（累計）437,189人

HLA適合報告ドナー数（累計）397,971人

実質登録患者実数（現在）1,746人（国内1,165人）

HLA適合患者数（累計）56,722人（患者累計数の79.5%）

非血縁移植実施数 29,663例（4-5月実施162例）

ボランティアの運動にも資金が必要です。東京の会に活動資金のカンパを！

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行（9900）／〇一八支店（018） 普通口座No.4180512

加入者名義 **骨髄バンクを支援する東京の会**